CASBEE 大阪 みらい 建築物総合環境計画概要書 新築

■使用評価マニュアル：CASBEE大阪みらい（新築）　I使用評価ソフト：「CASBEE大阪みらい 新築」2024年版 (v.1.0.1)

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)福島区吉野4丁目計画　新築工事
建設地	福島区吉野4丁目
建物用途	共同住宅
建築主	
設計者	
竣工年	2029年2月　　予定
構造/階数	RC造　　/　　地上19階
敷地面積	1725.09 ㎡
建築面積	852.36 ㎡
延床面積	13387.08 ㎡

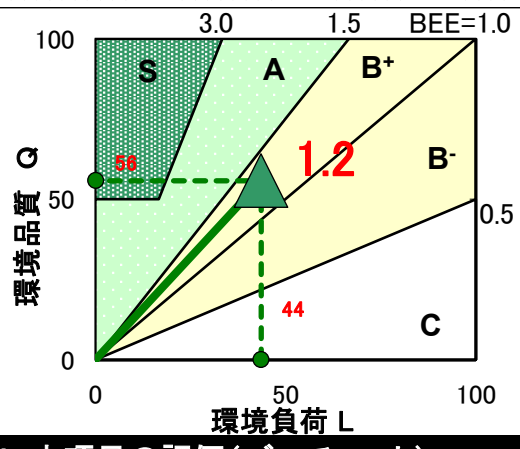
1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEﾗﾝｸ&ﾁｬｰﾄ)

B+

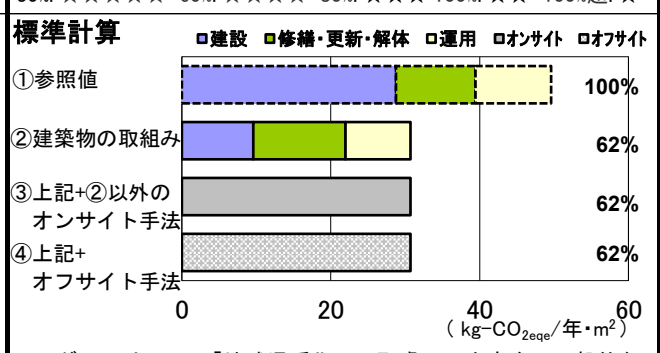
BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



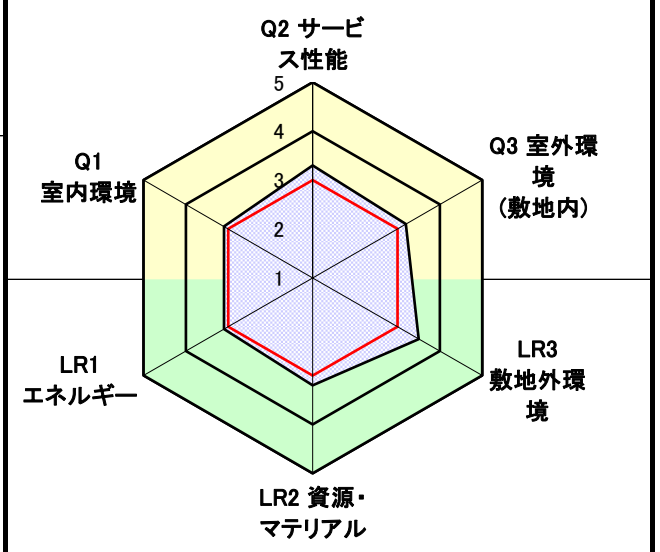
2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響ﾁｬｰﾄ)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたWLC 排出量の目安で示したものです。
④は参考として運用分をBEI+で表示しています。

2-3 大項目の評価(ﾚｰﾀﾞｰﾁｬｰﾄ)

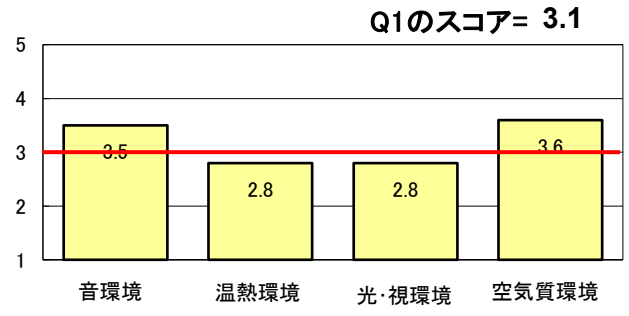


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.2

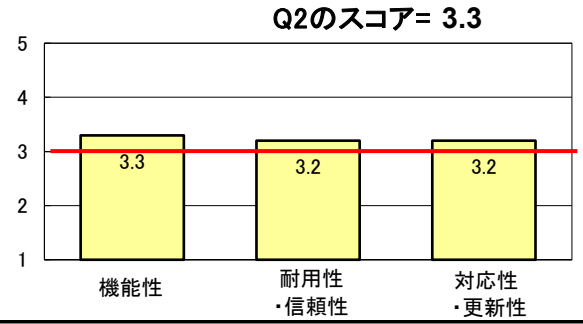
Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1



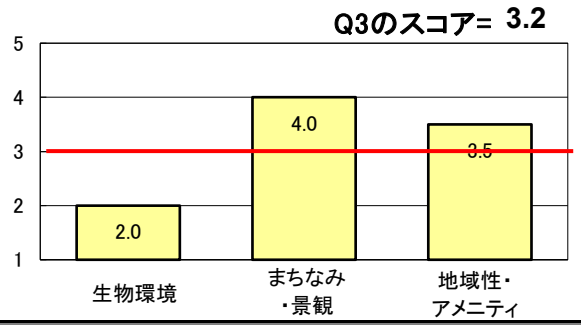
Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3



Q3 室外環境（敷地内）

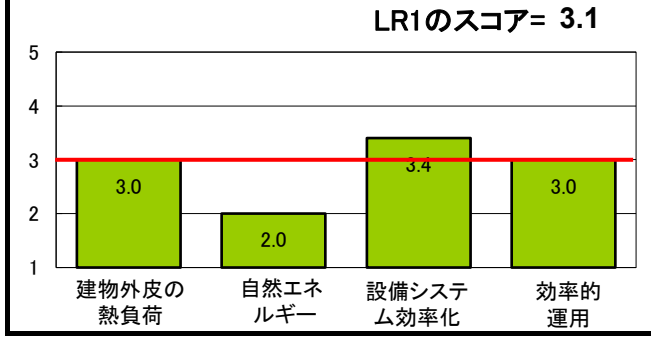
Q3のスコア= 3.2



LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.2

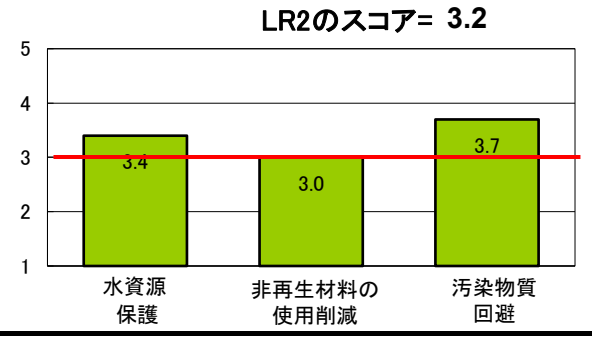
LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1



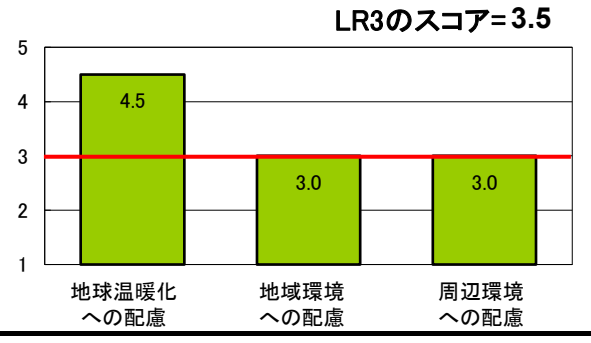
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2



LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.5



3 設計上の配慮事項

総合

省エネ機器を設置すると共に適切な断熱材を計画することで断熱性能、一次エネルギー消費量に配慮した。

その他

特になし。

Q1 室内環境

F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用すると共に遮音性能の高い建具を採用するなど居住空間の質向上に努めた。

Q2 サービス性能

Gbitクラス通信が利用可能な環境を整備し機能性向上を図った。また、劣化対策等級3相当の躯体とすることで建物の長寿命化を図った。

Q3 室外環境（敷地内）

アースカラーを中心とした建物色彩により周辺との調和を図るとともに、緑化による敷地内の暑熱環境緩和に努めている。

LR1 エネルギー

省エネ機器（LED照明、エコジョウズ、節湯水栓）の採用により設備システムの効率化を図った。又住戸の外気に面する床、壁、屋根には高い断熱性（Low-eペアガラス）を有する工法とし、外皮の熱負荷抑制を図っている。

LR2 資源・マテリアル

オゾン層破壊係数や地球温暖化係数が極めて小さい断熱材の採用により汚染物質含有材料の使用回避を図っている。

LR3 敷地外環境

省エネルギー化及び躯体の長寿命化により、ホールライフカーボン排出率を抑制し地球温暖化に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

建築物環境性能表示　結果〔重点評価〕

総合評価BEE　=　1.2

ラベル表示



環境性能		評価点	
(1)CO2削減		5.0	
CO2削減に配慮した環境性能			概要記入欄
LR3/ 1 /　/	地球温暖化への配慮	4.5	劣化対策等級3を取得する。
配慮事項	地球温暖化に配慮した。		

環境性能		評価点	
(2)みどり・ヒートアイランド対策		3.0	
みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能			概要記入欄
Q3 / 1 /　/	生物環境の保全と創出	2.0	特になし。
Q3 / 3 /3.2/	敷地内温熱環境の向上	4.0	緑地面積をできる限り取った。
LR3/ 2 /2.2/	温熱環境悪化の改善	3.0	特になし。
配慮事項	公開空地を設けて緑地及び植栽に配慮した。		

環境性能		評価点	
(3)建物の断熱性		3.0	
CO2削減に配慮した環境性能			概要記入欄
LR1/ 1 /　/	建物の熱負荷抑制	3.0	特になし。
配慮事項	特になし。		

環境性能		評価点	
(4)エネルギー削減		3.0	
CO2削減に配慮した環境性能			概要記入欄
LR1/ 3 /　/	設備システムの高効率化	3.4	BEIを0.9以下とした。
配慮事項	一次エネルギー消費量を削減した。		

省エネルギー基準計算結果

基準適合状況	適合

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4（相当）以上、非住宅部分が1.0以下であること
※ 住宅部分の一次エネルギー消費量については、BEIが1.0以下であること
※ 非住宅部分の一次エネルギー消費量については、「建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令（以下、「省令」という）」第1条第1項第1号もしくは、省令第1条第1項第3号に掲げる基準以下であること。

	住宅部分（品確法等級）		非住宅部分[BPI][BPIm]
外皮性能	等級4	（相当）	-

	住宅部分[BEI]	非住宅部分[BEI][BEIm]
一次エネルギー消費量	0.86	-